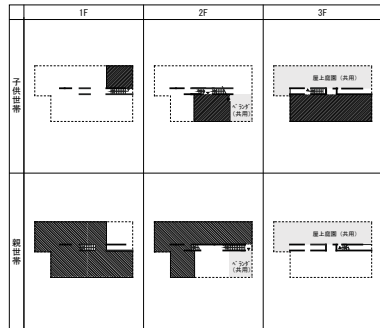




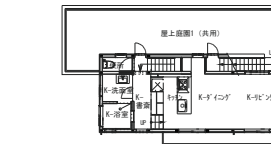
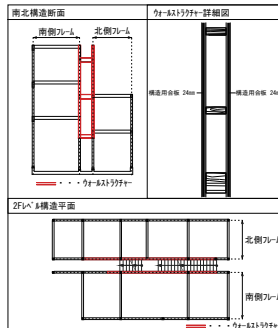
繋切の二世帯住宅

高級区周辺の閑静な住宅街に位置する2世帯住宅である。敷地内にあった地域でも有名な桜の木を残しての建築計画となった。
二世帯それぞれが日常の生活形態を完全に分離することを望まれたため、まずそれぞれの世帯の希望する空間の位置を希望通りゾーニングし、次に建物の中心に集約した両世帯の階段の壁・天井によって絡んだ空間を世帯別に分けるという手段をとった。一見、複雑な操作をしているようだが、階段で領域分けをすることでシンプルな住み分けが可能となった。
階段の構造は両壁をウォールストラクチャー（柱を24mmの構造用合板でサンドした壁）で構成し、段板自体が両壁をつなぎ合わせる梁の役割を担うものとした。
全体の構造は中心に位置したウォールストラクチャーで挟まれた階段の両サイドを柱梁のフレーム構造で支えている。
構造用合板の艶々しい表情をそのまま室内に現し、薄く白色の塗装をかけることで「下地」という合板のイメージを内装材として適当なものにした。領域分けをしているウォールストラクチャーの両壁が各部屋に艶々しい構造用合板という共通の素材として現れてくることになった。
パランダや屋上などの外部空間は共有というようにし、また各部屋からは庭のシンボルツリーを共有の視線の先として感じることができるようにした。それぞれのプライバシーを確保しつつ素材、外部空間、桜への視線を共有することで2世帯が同敷地に住む意味を見いだした。

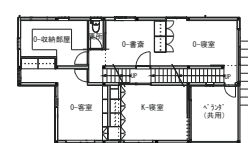
二世帯、子世帯平面が1775A



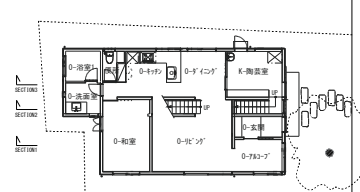
構造が1775A



3F PLAN 1:200

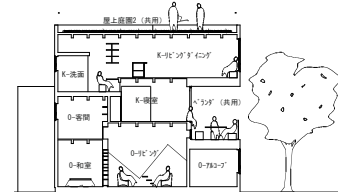


2F PLAN

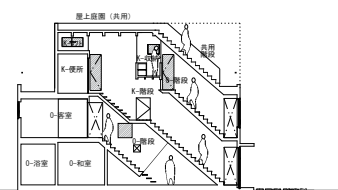


1F PLAN 1:200

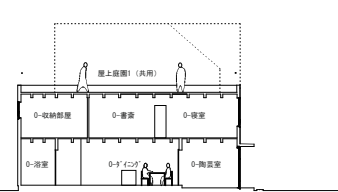
0-親世帯 K-子世帯



SECTION1 1:200



SECTION2 1:200



SECTION3 1:200

K-子世帯 0-親世帯

